

神戸町教育委員会  
事務事業の点検・評価報告  
(平成22年度事業)

平成23年11月

神戸町教育委員会

## I はじめに

### 1 教育委員会事務事業の点検・評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成19年に一部改正され、教育委員会の事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することとされました。また、点検・評価を行う際には、学識経験者の知見の活用を図ることも規定されています。

そこで、当委員会としては、次年度の事務執行に資するため、当該年度の事務について自己点検及び評価を行い、点検報告書としてまとめ、報告いたします。

(参考)

#### ○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II 点検・評価の実施方法について

### 1 評価の対象

教育委員会が平成22年度に実施した事務事業の中から主要なものを抽出し、評価を実施する。

- ・ 教育委員会の活動状況 : 教育委員会会議の実施状況, 調査活動の状況等
- ・ 教育委員会の事務事業 : 神戸町教育計画に掲げる重点目標の執行状況及びその成果
- ・ 前年度の点検評価結果への対応状況 : 前年度の点検評価結果において次項による達成度の評価がCまたはDとされた事務事業等に対する対応の状況

### 2 評価の進め方

#### (1) 一次評価

各学校及び幼稚園において神戸町教育計画重点目標に対する評価を行い、その結果を踏まえて事務局各課がその所管する事務事業等について第一次評価を行う。

#### (2) 二次評価

一次評価をもとに、評価委員（外部の学識経験者）により二次評価を実施する。

#### (3) 最終評価

教育委員会は、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、最終評価を実施し報告書にまとめ、議会に提出するとともに、公表を行う。

### 3 評価の基準

点検評価においては、次の4区分により達成度の評価を行う。

評 定	評 価 区 分
A	順調に達成しているもの
B	おおむね順調に達成しているもの
C	達成見込みであるが課題があるもの
D	順調でないもの

### Ⅲ 評価結果の概要

#### 1 教育委員会の活動状況

- (1) 教育委員会会議の実施状況 . . . . . (A) 順調に達成している
- (2) 調査活動の状況等 . . . . . (B) おおむね順調に達成している

#### 2 事務事業の執行状況

主な施策・事業より，24の事業を対象に点検活動を実施した。評価の結果は，以下の通りである。

- ・ (A) 順調に達成しているもの . . . . . 2事業／24事業中
- ・ (B) おおむね順調に達成しているもの . . . . . 22事業／24事業中
- ・ (C) 達成見込みであるが課題があるもの . . . . . 0事業／24事業中
- ・ (D) 順調でないもの . . . . . 0事業／24事業中

### 3 点検評価結果の内容について

#### (1) 教育委員会の活動状況について

点検項目	実 績	成 果 と 課 題	評価
教育委員会会議の実施状況	開催回数：定例会議 12回 臨時会議 2回  審議件数：専決報告 17件 議案 31件 内可決 28件	○ 毎月、定例会を実施し、各議事について、確実に報告・審議を行うことができた。 ○ 保護者代表が教育委員に入り、多様な意向をより一層的確に教育行政に反映させることができた。 ▲ 各小中学校の現状等についての交流にやや弱さがあり、改善が必要である。	A
調査活動の状況等	県外研修視察 ・ 10月13日～14日 ・ 福井県福井市  町内各学校・園訪問 ・ 10月～11月  町研究発表会 ・ 10月21日 神戸中	○ 市町村教育委員会研究協議会に参加し、地域の実情や特性に応じた特色ある優れた施策について研修を深めることができた。 ○ 町内の幼稚園や学校を訪問し、特色ある取り組みに触れ、今後に対する助言をすることができた。 ○ 神戸中学校での町研においては自ら学び、確かな学力をつける生徒の姿を見ることができ、大きな成果が得られた。 ▲ 日常的な学校訪問を計画するなど、さらに積極的に学校教育に関わる体制作りが望まれる。	B

(2) 事務事業の執行状況について（教育計画の評価）

① 幼児教育

領域	重点目標	成果と課題	評価
幼稚園 経営	全職員の共通理解，共通行動のもと，活力ある園経営をする。	○ リーダー会，学年会，全体会などの場を通して園の方針を話し合い，共通理解のもと保育にあたることができた。 ○ 遊びの環境図を作成し，実践の振り返りを全職員で行うことで課題を明らかにし，子ども同士のつながりを考慮した環境図への再構成を図ることができた。 ▲ 年齢や異年齢間の連携をさらに図りながら，発達の見通しをもった指導計画の作成が必要である。	B
研修	自己の課題を明確にし，主体的に研修を進め，確かな指導力を身に付ける。	○ 自己研修計画を作成し，それに基づいて実践したことで，保育の見通しや課題を明確にすることができた。 ○ 園内研修会や町内外の研修会に参加することで，子どもの遊びの見方や内面理解について学ぶことができた。 ▲ 職員同士で高め合うために，互いの保育を見合ったり，実践資料を基に話し合ったりする場を計画的に位置づける。	B
指導	発達の課題に即し，遊びを通した総合的な指導をする。	○ 今まで経験した遊びや場の構成を生かしながら，子どもの思いやイメージに寄り添い，環境を構成したり，援助に努めたりすることで，遊びの広がりが見られた。 ▲ 一人一人の発達に即し，さらに見通しをもった指導，援助ができるよう工夫したい。	B
協力連携	各園，各校，家庭，地域社会，関係諸機関との積極的な連携強化を図る。	○ 地域の方との交流によって，地域に愛着を持ち，豊かな体験をすることができた。 ○ 園周辺の施設を利用したり，自然と触れ合ったりする活動を仕組むことで，四季の変化を感じ，豊かな感性が育ちつつある。 ▲ 地域の人材や施設を生かした保育がさらに充実するよう，年間行事に位置付ける必要がある。	B

② 学校教育

領域	重点目標	成果と課題	評価
学校経営	全教職員の共通理解・共通行動のもと、感動と活力のある学校経営をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の環境や人材を積極的に活用し、各学校とも特色ある学校づくりができた。</li> <li>○ 安全確保に努め、事件・事故を未然に防止することに努力できた。</li> <li>▲ 地域との連携を一層深めながら協力を得ていく一方で、評価を生かした学校経営を更に工夫していく必要がある。</li> </ul>	A
研修	自己の課題を明確にし、確かな指導力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内研究テーマに取り上げた教科・領域の授業研究や生徒指導事例研等を通して、研修を深めることができた。</li> <li>○ 研究推進委員会や教科部会、学年会において、教材研究や授業実践の交流を積極的に行うことができた。</li> <li>▲ テーマに取り上げた教科・領域のみでなく、学級経営力・授業力向上を目指した様々な研修を位置づけ、内容を充実させたい。</li> </ul>	B
教科指導	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、自ら学び自ら考える力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 習熟度別少人数指導やT T指導等指導の形態や方法を工夫し、個に応じた指導を推進することができた。</li> <li>○ 月別学習目標を設定し、学習姿勢や学び方の指導を徹底することで、学習習慣が身についてきた。</li> <li>▲ どの子にも確かな学力をつけるために、指導内容の精査、指導方法の工夫改善を行うことが必要である。</li> <li>▲ 児童アンケートから「授業があまり楽しくない」と感じている姿も見られ、関心意欲など情意面を伸ばす手だてを講じる必要がある。</li> </ul>	B
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳授業と行事や日々の活動との関連を図り、生活と関わらせた道徳の授業の充実を図ることができた。</li> <li>○ 教室掲示に道徳コーナーを位置づけ、道徳の時間と行事や学級目標との関連を明確にして掲示をすることができた。</li> <li>▲ 児童生徒の姿からは、道徳的实践力が十分身についてきたとはいえない面も見られる。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践が必要である。</li> </ul>	B

領域	重点目標	成果と課題	評価
小学校外国語活動	外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ALTとの連携を図り、楽しい授業づくりを工夫することで、子どもたちが意欲的に授業に向かうことができている。</li> <li>○ 町で統一した年間指導計画を作成して授業実践ができた。</li> <li>▲ 学級担任が中心となる外国語活動を充実するために、指導力向上の研修等を継続して行う必要がある。</li> </ul>	B
総合的な学習の時間	よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の特色を生かして校区祭など発表の場が位置づけられている学校が多く、児童生徒が充実感を味わえている。</li> <li>○ 地域の素材や人材の開発、活用により、見学や人との交流を多く実践できている。</li> <li>▲ 小学校では、来年度からの新課程に合わせた指導計画の作成、ねらいや内容の見直しを行うことが急務である。</li> </ul>	B
特別活動	所属感を高め、自主的、実践的な態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学活での話し合いを構造化、習慣化することで、話し合いの力がつき、問題を集団で解決しようとする姿を育てることができた。</li> <li>○ 子ども同士の関わりを生む行事や生活の取り組みを工夫することで、集団やリーダーを育て、自発的自治的な活動を進めることができた。</li> <li>▲ 行事の取り組みで育てた力が、次の取り組みや生活に生かし切れない面がある。点の活動を線でつなぐ計画への位置づけが必要である。</li> </ul>	B
進路指導	自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域人材の活用によって、様々な人の生き方に触れ、働くことの尊さを知ったり、希望や憧れを持ったりすることができた。</li> <li>○ ボランティア活動の機会を意図的に仕組み、トイレ掃除、ごみバスターズ、揖斐川清掃などに多くの児童生徒が参加できた。</li> <li>▲ 勤労の価値が実感できるように、充実感もてる勤労体験活動の工夫、実践が必要である。</li> </ul>	B

領域	重点目標	成果と課題	評価
生徒指導	生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かして、自己指導能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全職員が、児童生徒について積極的に情報共有をし、早期発見、早期対応、継続的かつ迅速な指導が全校体制できている。</li> <li>○ 学級づくりの中で認め合う時間を多く取り、一人ひとりを大切にしたいじめや差別を生まない経営を進めている。</li> <li>▲ 問題行動、不登校等への対応や未然防止に不可欠である家庭との連携を、普段から強化していくことが必要である。</li> </ul>	B
健康教育	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育の授業はもとより、朝活動や休み時間、部活動等の積極的な活用により、運動量を確保することができた。</li> <li>○ 学級担任と、養護教諭、歯科栄養士、栄養教諭等とが連携して、計画的に健康指導をすることができた。</li> <li>▲ 規則正しい生活リズムの構築やう歯罹患率の向上など健康教育の充実のためには、家庭との連携を図る工夫が必要である。</li> </ul>	B
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援コーディネーターを中心とした特別支援教育の体制整備を図り、関係諸機関とも連携を図ることができた。</li> <li>○ 個別の支援計画を学期ごとに作成し、それに基づいて指導方法を工夫できた。</li> <li>▲ 困り感をもつ個々の児童生徒の理解を進め、全校体制で共通理解を図って、きめ細かい支援に生かす。</li> </ul>	B
協力連携	各校、各園、家庭、地域社会、関係諸機関との積極的な連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者アンケートの実施や通信等による情報発信など、開かれた学校を目指した取り組みを進め、家庭との連携が図られた。</li> <li>○ 挨拶運動や見守り隊など、地域やPTAと学校とが連携をして子どもの指導にあたり、成果が上がっている。</li> <li>▲ 保護者や地域が参加できる行事、活動を一層充実し、児童の姿を通して、学校での指導の力点を伝えたい。</li> </ul>	A

③ 社会教育

領域	重点目標	成果と課題	評価
家庭教育の充実	<p>家庭教育に関する学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て交流の促進を図る家庭教育の充実</li> <li>・ 「家庭の日」の普及と促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育委員会主催による家庭教育講演会を開催した。</li> <li>○ 幼児園児の保護者を対象に、食育をテーマに給食試食会を実施した。</li> <li>○ 各小学校において、PTAが主体となって、特色ある内容の家庭教育学級が行われ、充実が図られている。</li> <li>○ 就学前の乳幼児を持つ保護者間の情報交換の場を提供した。</li> <li>▲ 図画の募集や啓発カレンダーの配布を通して、「家庭の日」の普及を図っているが、保護者や地域に対して実効性のある手だてを講ずる必要がある。</li> </ul>	B
地域教育力の向上	<p>子どもの「生きる力・社会力」の育成と、学校・家庭・地域の相互連携・協育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異世代間、親子のふれあいを生む学習機会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町民会議が主体となり、育成団体における交流活動やあいさつ運動等を推進して、協働体制で取組みの充実を図っている。</li> <li>▲ 各小学校区において、地区公民館や学校の行事を通して、青少年のボランティア活動に参加・協力する町民が各校区によって差がある。</li> </ul>	B
青少年の健全育成	<p>青少年の「生きる力」の育成と「心の教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非行、いじめの未然防止への取組みの推進</li> <li>・ 安全で安心できる環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各校区や地区において、自主的なサポーターや見守り隊が組織されるようになってきた。また、あいさつなどの声掛けに素直に呼応できる小中学生が多くなっている。</li> <li>○ 非行の未然防止について個人情報に留意しながら定期的な情報交換を行っている。</li> <li>▲ 地域のおばさん、おじさん運動への会員登録と活用を図る必要がある。</li> </ul>	B
成人・高齢者教育	<p>多様化する住民ニーズに応える体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区公民館活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地区公民館が主体となって、成人を対象とした各種講座等を開講している。</li> <li>▲ 中央公民館が策定する公民館推進計画に基づき、各地区公民館が運営計画を策定していく必要がある。</li> <li>▲ 地区公民館や図書館等の施設の活用は徐々に増えているが、生涯学習の推進について、町民の意向を聞きながら、運営に反映しつつ参加・協力しやすい機運をさらに高めたい。</li> </ul>	B

領域	重点目標	成果と課題	評価
芸術・伝統文化の継承と文化財保護	地域に根ざした個性豊かな文化の創造 ・ 芸術文化活動の充実 ・ 歴史的文化遺産の保護と活用	○ 日比野五鳳記念美術館では、春・秋季展及び美術展が開催されており、今後も有効活用を図っていききたい。 ▲ 埋もれている文化財（遺産）の調査研究を推進する必要がある。 ▲ 町にある国・県・町文化財を発表する場や機会を設ける必要がある。	B
人権教育の推進	「見逃さない」「許さない」意識の高揚 ・ 人権に関する学習活動の推進	○ 小冊子「ちょっといい話」を発行することにより、人権意識の高揚に努めた。 ▲ 人権推進の取り組みを継続的に行う必要がある。	B
生涯スポーツの推進	「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツのできる環境づくり ・ 生涯スポーツ活動の普及と団体の育成	○ ごうどスポーツクラブにより、各種教室や行事等がよく工夫され、積極的に実施されている。 ▲ スポーツ団体の充実により団体に所属していない方の利用がしづらくなっている。	B
スポーツ振興のための基盤整備	既存スポーツ施設の効率的活用 ・ 指導者の育成と確保 ・ スポーツ施設の充実	○ スポーツクラブ、スポーツ少年団と連携して、研修等を通して指導者の資質の向上を図っている。 ▲ 既存スポーツ施設の有効的活用を一層図る必要がある。	B

#### ④ 前年度C又はDとされた事務事業等に対する対応状況

「C」： 小学校外国語活動

- ▲ つけたい力を明確にし、英語ノートの活用方法を検討する必要がある。
- ▲ 他学年や中学校との関連を考慮した校内や町全体の推進体制を確立する必要がある。

##### 【対応状況】

- ・ 神戸町学校連盟総務部外国語活動推進委員会の回数を増やし、各小学校間の連携を深めると共に、町で統一した年間指導計画を作成した。特に、5、6年生については英語ノートを十分活用できる指導計画とし、活用方法も検討をしている。
- ・ 神戸町学校連盟総務部外国語活動推進委員会にALTが入り、町内の先進校をモデルとした授業過程や指導方法について、各校の外国語活動担当が研修をし、各校の研修会等で広めた。
- ・ ALTと連携を図り、学級担任が中心となって児童が外国語に慣れ親しむことのできる授業実践ができるよう、校内研修の充実に努めた。

#### IV 評価委員からの評価

<p>教育委員会の活動状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨時も含めて14回の会議が開催され、必要事項の報告・審議がなされたことは大いに評価できる。</li> <li>・ 懸案であった保護者代表の教育委員が実現したことは、保護者目線の即時的な課題に目を向けることが可能になりとても望ましいことである。</li> <li>・ 実情では十分に対応されていると思われるが、地震や災害への危機対応の再確認が今一度必要ではないか。例えば、地震や火事を想定した避難訓練のみならず、揖斐川決壊想定などシビアアクシデントでの避難訓練とか暴風雨警報発令下での下校判断など、多様な事態を想定しての対応を各学校に要請する必要があるのではないか。</li> <li>・ 県外機関を視察する研修は継続されるべきであり、市町村教育委員会研究協議会へも参加されたことは評価できる。</li> <li>・ 全教員の自己点検を促進する必要はないだろうか。授業・指導・保護者との連携・研修への参加などの自己研鑽のみならず、自己の健康管理として、心身の休養の確保等を自己点検することによって、多面的な自己理解と教育実践の向上が期待できるのではないか。</li> </ul>
<p>幼児教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼保一体となって、多くの話し合いの場をもって共通理解に基づく保育が実践できたことは大いに評価できる。</li> <li>・ 自己研修計画の作成や園内外での研修を積み重ねて、保育の課題を明確にし、子どもへの理解をより適切に深める努力は、今後も大いに継続されることが望ましい。</li> <li>・ 園児が園内だけの経験ではなく、地域の四季の生活と密着した様々な経験を地域の方々の協力を得て積み重ねることは、財産ともいえることであり、今後も積極的に協力を要請して継続すべきである。年間計画の中に全園がこうした活動が盛り込めることが可能になるように、地域の方々への協力を積極的に推進すべきである。</li> <li>・ 幼児期の心身の発達支援は重要である。とりわけ健全な母子関係による心理発達の課題の克服は、90年人生を支える上で緊要である。全ての保育者が心理発達の理解に精通するよう研修を継続するとともに、その発達のみちすじを保護者に円滑に伝えられる保護者との絆の形成に留意する必要性がありはしないだろうか。</li> </ul>
<p>学校教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝の挨拶運動では、校門でにこやかに教師と児童・生徒が挨拶でき、各校とも落ち着いた教育環境が確保され、個に応じた教育も含めた教育が実践されたことは大いに評価できる。</li> <li>・ 授業研究・教材研究・生徒指導事例研究等の研修が積極的に実践されたことは、教育の根幹でありとても評価できる。</li> <li>・ 外国語教育がALTを有効に活用されて、積極的に実践されていることは将来を見通すうえで頼もしいことである。</li> <li>・ 地域の人々と交流のある学校行事が個性化されて充実してきていることは、とてもうれしいことである。</li> <li>・ 学級活動での横のつながりと地域を巻き込んだ学校行事・児童会・生徒会活動等の縦のつながりが充実していることは評価できる。行事や活動だけのつながりではなく、日常生活での広がりや深まりを意図する必要性がありはしないか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳は日常生活での思いやり・自覚・実践に繋がるのが重要であり、学校のみならず、家庭や地域での見守りも含めた重点化が必要ではないか。</li> <li>・ TVの地上デジタル化によって、従来のTVは機能を失うが、各学校におけるAV機器・情報・ネットワークの必要性和機器について将来 vision の策定に基づいて対応する必要があるのではないか。</li> <li>・ 教育委員会が initiative を発揮すべきことであるが、職務研鑽に専念するあまり全教員の心身とりわけ心の健康管理が軽んじられ、個々が無理されていることはないか。個々の自己点検評価を推進するなか心身の自己健康管理の自覚を促す必要があるのではないか。</li> <li>・ 教育委員会の課題でもあるが、学校独自にシビアアクシデントを可能な限り想定して、安全確保の訓練・マニュアル作成を平穏な時にこそ心がけ実践すべきではないか。</li> </ul>
社会教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育講演会を始め、PTAを活用して多くの家庭教育啓発がされたことは大いに評価できる。</li> <li>・ 各地区でのサポーターさんや見守り隊さんのご協力もあって、挨拶のできる子どもは確実に増え、子ども集団も以前よりは落ち着いた友好的な関係を保持できるようになったことへの各位のご尽力は、大いに評価できる。</li> <li>・ 中央公民館での幅広い企画と活動は、大いに評価できるが、身近な地区公民館が、もっと手軽に日常的に機能するよう抜本的な検討が必要ではないか。</li> <li>・ 健康な高齢者が身近な地域で日常的に活動し、交流できる場と企画を継続的視野に立って構築していく必要性がありはしないか。</li> <li>・ 充実している各種施設(スポーツ施設等)等を取りわけ高齢者も含めて利用しやすく開放し、その広報を積極的に推進してはどうか。</li> </ul>

## 総括

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育から社会教育の全分野において、すべての町民が健全で充実した生活が出来るよう、将来を見通して十分な活動がなされていると大いに評価します。しかしながら、少子高齢化が叫ばれる時代にあって、一人ひとりの子どもを家庭・学校・地域でつながりをもって、どんな子どもに育て、高齢者の日々の生活にどのような希望と元氣と充実感を提供していくのか、確かな vision と計画に基づいて具体的にさらなる遂行が急がれます。</li> <li>・ 想定を越えたシビアアクシデントが生じることは、神戸町も例外ではありません。人知の限りを尽くして対応を講じることご催促を受けた今年度に思えます。教育委員会のみならず町機能全体に強いリーダーシップが求められているのではないのでしょうか。</li> <li>・ 教員の資質向上にあたって、個々の自己点検に基づく自覚と研鑽が強く求められますが、心身の健康管理がなおざりにされる危惧があります。神戸町は、現在はきわめて健全に両者が保持されていますが、今後に向けても、今以上に管理職の方々による柔軟なバランス感覚を大いに求めます。</li> <li>・ 教育委員会には時代に即応し、危機対応をも兼ね備えて、人をはぐくみ支え支援する機能が求められています。必要に応じて、行政の枠組みにとらわれず有効に機能する委員会を今後も期待します。</li> </ul> <p style="text-align: center;">平成23年10月20日</p> <p style="text-align: right;">神戸町教育委員会点検評価委員 讓 西賢</p>
--